



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学同窓会報

Vol.2

平成26年10月20日 発行
四日市看護医療大学同窓会事務局

ごあいさつ

四日市看護医療大学同窓会副会長 平成23年度卒業 葛谷 直樹

今回四日市看護医療大学同窓会会報のごあいさつを担当させていただきます、2期生の葛谷です。

私たち2期生は看護師として現場にでて3年が経ちます。皆が病院、保健所などに就職し、様々な看護の現場で活躍しております。大学生活、職場で培った知識・技術をいかんなく発揮し、看護師として、プロとして、一つ一つ成長し、社会に貢献できるようにと日々精進しております。

看護師という仕事はとてもやりがいのある仕事です。患者様と共に笑い、悩み、ときには泣き、一緒に病気に立ち向かっています。そのときにいつも実感するのが家族の力・支えです。私たち看護職がどれだけ看護を展開しても、家族の力・支えには勝つことができません。家族が寄り添っているだけで、家族が横にいるだけで、私たち看護師の寄り添うのとは全く比べることのできない力がそこにはあります。当然の事だとは思いますが、その当然の事に毎日驚かされています。自分の家族を大切に思う気持ちを常に持ち続けていることは難しいことだと思います。ふとしたときに家族を傷つけ、おろそかにしてしまう場面があると思います。しかし、ふとしたときに大切であると実感できるのも家族です。家族の力・支えという偉大な力です。看護師として患者様はもちろん、患者様の家族も巻き込んで看護を展開し、この家族の力・支えという偉大な力を発揮できる環境づくり、発揮するための支えを看護職として展開できていければと思います。世界中の皆が笑顔で健康であり続けてほしいと一医療従事者として強く思います。

さて、私たち同窓会役員は同窓会役員会への参加や、同窓会の企画・実行をしています。私たちの大学も早いもので4期生ものの卒業生が誕生しています。そこで平成27年度には初めて大学全体での同窓会の開催を企画しています。これから役員が集まって企画していきますので、その際に何かご意見・ご要望をございましたら各学年の同窓会役員にご連絡いただけたら嬉しく思います。初めての大学全体での同窓会になります。皆でより良いものにして、定期開催につなげていきたいと考えています。そのためには皆の一人ひとりの貴重なご意見が大切になってきます。ぜひとも、皆ですばらしい同窓会が開催できるように私たち同窓会役員も頑張っていく所存です。

私がこのごあいさつで言いたいのは、皆のつながりを大切にし、この同窓会という場が、思い出を振り返る機会、仕事での意見交換ができる機会であってほしいということです。それと、看護師として、人として一人ひとりが成長し、それを同窓会で披露できる機会であってほしいと願うばかりです。

それでは、同窓会の場で皆様にお会いできることを楽しみにしています。



私の“大切な宝”の 卒業生の皆さんへ

河野 啓子 名誉学長（特任教授）



2007年4月1日、最初の入学式が挙行され、喜びに満ちた表情の1回生143名を迎えてから、7年6か月が過ぎました。1回生は看護専門職になって4年目ですね。“石の上にも3年”といいますが、その3年も無事に過ぎ、これからは看護専門職としての本領発揮ということになります。ここに至るプロセスにおいては、さまざまな困難に押しつぶされそうになったことも多々あったことでしょう。それでもいつものチャレンジ精神で、それを乗り越え、四日市市内はもとより全国の医療機関、三重県内外の保健所・保健センター、企業など、幅広い分野で、看護専門職として着実に成長しておられることに、私は大きな喜びを感じます。また、1回生に続いて、2回生、3回生、4回生も、それぞれの職場で頑張っておられる様子を所属長、患者さんやその家族、住民などから耳にすることが多く、さすが“私の宝たち”との思いを強くするとともに、誇らしさを感じています。

わが大学の発展は、卒業生の皆さんの双肩にかかっています。素晴らしい仲間である同窓生間の絆を大切に、これからも困難には果敢に挑戦し、笑顔を忘れず、建学の精神“人間たれ”に則って、温かなヒューマンケアを実践していただきますよう、期待しています。

ここで出来た お友達を大事にしてね！

ダニエル カーク 教授



ブロードウェイで大ヒットしたミュージカルがあります。そのなかの歌に「一年間は、どのように計るのか」といった意味の歌詞がありますが、私は、大学4年間の長さも人によって違うのではないかと考えています。4年間という単なる時間数なのか、あるいは履修した授業数、取得した単位数なのか。やはり、私は、大学生活のなかで、ともに学び、苦しみ、そして楽しい日々を過ごした友だちとの時間が、4年間の重みだと思います。そして、その友だちが、皆さんにとって、一生のかけがえのない宝物になったのなら、とても嬉しく思います。

先日、大学時代の親友から30年ぶりにメール連絡がありました。私とは同じ専攻でしたが、かれが先に卒業してしまい、それ以来、連絡を取り合うことはありませんでした。突然の連絡でしたが、30年の時の長さを全く感じることなく、時間を忘れ、昔話やお互いの近況について、学生時代のように話をするのができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。同窓生の皆さんに、友だちは人生の支えとなります。友だちを大切に、がんばってください！

卒業生の皆様、 お元気にお過ごし でしょうか？

後藤 由紀 准教授



四日市看護医療大学も開学から8年が経ちました。ということは、私自身の四日市看護医療大学での教員経験も8年目を迎えたのですね時の移ろいは早いものだと感慨深くなります。思い起こせば、1年目の私自身は、自分自身の経験の浅さに翻弄され、看護の幅広さと奥深さを、どう伝えればよいのか悩みながら、毎日毎日を過ごしていました。時に傷つくこともありましたが、多くの時間は、共に学ぶことの手応えと喜びを感じることができた日々でした。そのような時間と経験の積み重ねの一つ一つが、今の私自身を形成していると感じています。

卒業生の皆さんも、それぞれの職場でご活躍のことと思います。時には、辛いこと、悲しいことなど、どうしても出来ない心の揺れがあるかもしれません。しかし、患者さんのケアから得られる貴重な経験、あるいは同僚、先輩などの同僚の存在によって、支えられ勇気づけられ、一步一步、確実に成長されていることと信じています。だって、私は、皆さんの看護の原点であろう四日市看護医療大学で真摯に学びを深められた姿を知っていますから。

ご存知の事かと思いますが、本学は大学院も開設されました。現場経験の長い看護の大先輩だけでなく、本学同窓生が再び大学院で看護を探求しています。その姿は、同じ看護を志すものとして大変頼もしく、また四日市看護医療大学の卒業生の益々の成長を確信させます。今後も、多くの卒業生の皆さんと大学院で看護について語り合えたらと思っています。

もちろん、研究室をふらりと訪ねてくださったり、メール等で仕事ぶりを知らせてくれる卒業生からも、皆さんが、素敵な看護職として活躍していることを嬉しく思っています。その姿は私ども教職員だけでなく後輩の誇りでもあります。

これからも、母校として皆さんを見守り支えることのできる大学づくりに一教員として携わっていきたく思っていますので、どうぞ、たまには大学に遊びに来て、近況をお聴かせくださいね。

大学の現況

看護研究交流センターができました。

教授 豊島 泰子

卒業生の皆さんお元気ですか？四日市看護医療大学は、8年目を迎えました。本学を卒業され、医療の最前線で生き生きと活躍されている皆さんの姿を想像し頼もしさを感じている今日この頃です。時々卒業生の皆さんが本学を訪ね、病院での仕事内容などを話してくださり、皆さんが看護の専門職として、人として成長されている様子を教員として非常にうれしく思っています。

このたび、本学に看護について調査・研究を行う目的で、「看護研究交流センター」ができました。そこで行うプロジェクト事業として、本学の卒業生の皆さんを支える「卒業生を支えるサポート事業」を立ち上げました。看護職の仕事は、常に厳しさが伴います。医療の現場で、皆さんが日々悩んだりした時など、皆さんを支援できればと考えています。

この事業の開催時期につきましては、改めてお知らせいたします。この事業だけでなく、本学の教職員一同が卒業された皆さんのよきサポート者であることを忘れないでください。皆さんの時間がある時にいつでも本学にお立ち寄りください。

大学院でキャリアアップをめざしませんか？！

教授 水野 正延

私は平成25年4月1日に四日市看護医療大学へ赴任し、精神看護学教授および大学院研究科長を拝命いたしました。さて看護学教育の大学化は1952年に高知県立大学で始まり（現在は230校以上）、大学化はさらに大学院教育に発展しました。

本学は平成19年4月に看護学部を開設し、初めて卒業生が臨床の場に立った平成23年4月に大学院が設置されました。最初の学部卒業生は本年度で4年が経過します。第一線で期待され活躍されている卒業生の皆さまは、さらなるキャリアアップを目指す意欲を持たれている方もみえることと思います。

キャリアアップの選択肢の一つに大学院があります。本学の修士課程には論文コースとCNSコース（急性看護学）があり、2年間の修業（3年の長期履修制度あり）で基本的な研究方法を修得します。卒業生の皆さま、大学院への進学を考えられるのであれば、ぜひ大学にご相談ください。皆さまのますますのご活躍をお祈りしております。

新任教員

【平成26年4月】

草川好子准教授（基礎）、三好陽子講師（老年）

【平成26年6月】

落合富美江教授（母性）、増田由美助教（小児）

【平成26年7月】

稲佐郁恵准教授（母性）

退任教員

【平成26年3月】

中島通子教授（母性）、橋爪永子准教授（小児）、大山真貴子准教授（成人）、牛之濱久代准教授（母性）、荻田さゆり助教（基礎）、佐藤光年助教（老年）、小畑俊男特任教授

第8回 よんよん祭

10月25日(土) 26日(日)



よんよん祭
YONYON
FESTIVAL
10月25日(土)・26日(日)

今年「絆 - 3年後の私たち -」

ステージ公演、コスプレ大会、お祭り大会、ジャンケン大会、くじ引き、ダンス、模擬店、販売など今年も盛りだくさんです!!

キングオブコント2009王者「東京03」来学
10/26 14:00～開演（受付12:00～）
会場：3号館 多目的ホール（4F）
FV Online スクールタイムの当日は配信あり
一般参加費無料

今年度で8回目を迎えます本学大学祭は、「よんよん祭」として、四日市大学と合同で10月25日（土）、26日（日）に行われます。今年度のテーマは「絆-3年後の私たち」。模擬店、ステージイベントのほか、小さな子どもたちを対象とした緑日形式の「ちびよん」も開催されます。大学祭実行委員一同、卒業生の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

【FM三重公開録音】
キングオブコント2009王者「東京03」来学
日時 2014年10月26日（土）14：00～
場所 3号館



同窓生メッセージ

沖 佐織 (平成22年度卒業)

初めまして、1期生の沖佐織です。みなさん卒後も元気に過ごされていますか？私は市立四日市病院の産婦人科で働いています。助産師として4年目を迎えることができました。今でもお産に立ち会ったり痛患者さんの死に向きあうたびに、自分の関わりはどうだったのかと反省しながら学ばせてもらっています。最近、後輩や助産学実習につかせてもらったり、チームリーダーをしたりとステップアップしているところです。みなさんもそれぞれ大変なこともあるかと思いますが、心豊かにあなたのペースで楽しんで下さい☆みなさんのご多幸とご活躍をお祈りしています。ごきげんよう、さようなら。

寺尾亮平 (平成23年度卒業)

現在私は、名古屋第二赤十字病院の救急病棟（HCU）の3年目として働いています。月に300人もの入院患者さんを24時間体制で受け入れをし、内科・外科系疾患、外傷など全科にわたる患者さんに対して看護を提供しています。

日々の臨床で、せん妄を起こす方・入退院を繰り返す方・老老介護や認知介護で自宅へ帰られない方などが多くいることを感じています。一方、新聞やテレビなどで2025年問題として高齢者の急増が問題視されています。大学時、急性期から在宅領域まで幅広く学ばせていただいたおかげで急性期をやりながら地域医療への問題意識を持つことができました。地域で看護師の活躍できる場は多くあります。視野を広くして、社会に貢献したいと考えています。

北森史佳 (平成24年度卒業)

市立四日市病院で助産師として働き始めて早いもので1年半が経ちました。1年目の頃に比べると仕事にも少しずつ慣れ、できることもだんだん増えてきましたが、まだまだわからないことも多く、日々たくさんのことを学ばせてもらいながら頑張っています。

病院内で実習生の姿や懐かしい先生方の顔を見かけると、自分が病院で実習していた頃を思い出します。実習は大変でつらいこともありましたが、仲間の支えや先生方の熱心なご指導があり、本当にたくさんの学びがあったと感じています。実習や国家試験など大きなイベントがたくさんあり大変ではありましたが、日々充実した学生生活を送ることができたことにとっても感謝しています。

近藤清美 (平成24年度卒業)

私は大学を卒業し、四日市羽津医療センター健康管理センター保健指導室「いちご」で保健師として働いています。主な仕事内容は特定保健指導といって病気になる前の段階の状態いわゆるメタボに近い状態の人を対象に健康セミナーを行っています。健康セミナーの内容は半年間で目標体重や腹囲を決めて計画を一緒に考えます。計画は対象者の人が日常生活を変える事なく無理のない、実現可能な計画を一緒に考えていきます。対象者の人は働く人がほとんどです。無理なく、ちょっとずつやってみることが行動変容に繋がり結果を出すのが狙いですが、私の仕事はそれだけではありません。健診データの見方や健診結果から受診を勧めたり、仕事や家庭の悩みを聴いたり様々です。もう一度、あの保健師さんと話してみたいと思って貰える魅力ある女性になれるように、これからもがんばっていきたくと思っています。

瀬田由香 (平成24年度卒業)

私は現在、名張市役所で保健師として勤務しています。配属部署は健康福祉部健康支援室。名張市では業務担当制と地区担当制で保健師業務を行っています。その中で私は母子保健担当と、2つの地区を担当している2年目保健師です。

母子保健の業務は母子健康手帳の発行、赤ちゃん訪問、1歳半、3歳児健康診査、5歳児健診など行っています。最近では私も個別のケースを受け持っていて、例えば先日は、赤ちゃん出産後に早期に病院へ訪問し、退院後、在宅へ帰っても母子が安心して育児できるように、本人、家族、病棟の看護師、医師、ケースワーカーなどとカンファレンスしたこともありました。病棟の助産師や看護師は行政保健師と関わる機会が少ないかもしれませんが、同じ看護職として市民のために一緒に連携して支援していけたらと思います。

決算報告書 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部	費用	決算	備考	支出の部	費用	決算	備考
	前年度繰越金	8,637,141		会費	58,815		暁学園同窓会費
	会費	3,480,000	卒業生(116名分)	同窓会会報	171,430		印刷、郵送代等
	雑収入	1,391	利息	卒業記念品	177,438		携帯マグ、花
	合計	12,118,532		寄付	500,840		伊豆大島 義援金
				小計	908,523		
				次年度繰越金	11,210,009		
				合計	12,118,532		

同窓会役員

会長	近藤あおい (平成22年度卒業)	監査	中村明日香 (平成23年度卒業)
副会長	葛谷直樹 (平成23年度卒業)		新田悠介 (平成25年度卒業)
会計	小嶋まり (平成22年度卒業)		安達菜月 (平成25年度卒業)
書記	北森史佳 (平成24年度卒業)		